

COVID-19の予防および治療用方剤

菅沼 栄¹⁾ 吉永 恵実²⁾ 李 向軍³⁾ 宋 靖鋼⁴⁾
陶 恵栄⁵⁾ 楊 晶⁶⁾ 項一 雅子⁷⁾ 李 曉燕⁸⁾

予防治療

(健常者および無症状感染者)

2020年1月より新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が拡大しており、世界中で治療薬の開発が続けられているが、いまだ決定的な治療薬がないのが現状である。そんななか、本病に対し自身の抵抗力を高める方法を探っているものも少なくない。中医学は、古来より瘟疫に対し大きな力を発揮してきたが、ここでは、瘟疫に対する抵抗力づくりによく用いられる方剤をいくつか紹介する。

●玉屏風散 (『世医得効方』)

本剤は、疲れやすい・自汗・カゼを引きやすいものに対し、防御力を高める処方である。

【組成】黄耆 18g, 白朮 6g, 防風 6g

【解説】

君薬：黄耆は大量に使い、脾肺の気を補いながら、衛陽不足の表(腠理)を固めて(自)汗を

止める作用がある。

臣薬：白朮は、益気健脾の効能があり、黄耆を補佐して、益気固表する。

佐薬：防風は走表し、風邪を祛除し、黄耆と白朮とともに祛邪するが正気を傷めず、補中有散・散中有補の効果がある。

【効能】益気・固表・止汗

【臨床応用】本剤は表虚自汗証に用いる。汗が出て風を嫌がり、顔色は白い、舌淡・苔薄白、脈浮虚で無力。また、虚弱で腠理が固まらず、カゼを引きやすく治りにくいものに使われる。寒湿外邪といわれるCOVID-19の侵襲に対し防御的な役割を果たす。

【日本における参考処方】同処方

●補中益気湯 (『脾胃論』)

本剤は、脾気虚・気陷および肺気虚の諸症状を改善する処方である。

【組成】黄耆 15g, 人参(党参) 9g, 白朮 9g, 炙

- 1) えみクリニック東大前, 漢方外来・漢方免疫たかはし内科クリニック, まつしま病院 漢方相談 本草薬膳学院, イスクラ中医学習塾 中医学講師
- 2) 医療法人社団同済会 理事長 えみクリニック東大前 院長 (医学博士)
- 3) 医療法人新中医東文中医クリニック, 李漢方内科・外科クリニック 理事長 世界中医連合会呼吸器病専門委員会 副会長
- 4) 新日本漢方株式会社 代表取締役, 日本漢方研究センター 所長 (医学博士・中医主治医師)
- 5) 陶氏診療院 院長, 漢方アロマ療養師育成校株式会社 校長 (医学博士)
- 6) ココモメディカルクリニック, 日本中医協会 理事 (医学博士)
- 7) 茶屋ヶ坂東洋医学研究院 院長, 上海中医薬大学付属日本校 客員教授
- 8) 有限会社あらさ鍼灸整骨院 取締役, 海風診療所・梶山内科 非常勤漢方相談 (中醫師・鍼灸師)

甘草 6g, 当帰 9g, 陳皮 6g, 升麻 3g, 柴胡 3g

【解説】

君薬：黄耆は昇発陽気の効能があり、大量に用いる。低下した脾気を高め、気血生化の源を充実させ、体全体が養われるように働きかける。

臣薬：人参・白朮・炙甘草は補気健脾に働き、黄耆を補助する。

佐薬：当帰は人参・黄耆を補助し、養血補血によって補気を強める。陳皮は理気と胃で、膩滯の弊害がない。少量の升麻・柴胡は昇陽挙陷によって、下陷した中気を上昇させる補佐的な役割である。

使薬：炙甘草は諸薬を調和する。

【効能】補中益気・昇陽挙陷

【臨床応用】本剤は、脾虚気陷証に用いる。元気がない・食欲低下・四肢の倦怠・物を言うのがおっくう・気虚発熱、下腹部の下垂感・脱肛・子宮下垂など、舌淡・脈沈細のものに使われる。今回のCOVID-19では胃腸症状を起こす例が多く、脾胃の陽気を昇らせ、外邪の侵入による外感病を予防することにつながる。

【日本における参考処方】同処方。

かっこうしゅうきさん

●藿香正気散（『太平惠民和剂局方』）

本剤は、いわゆる「お腹のカゼ」（悪寒発熱・下痢吐気）を治療する処方である。

【組成】藿香 9g, 紫蘇 3g, 白芷 3g, 大腹皮 3g, 茯苓 3g, 半夏麴 6g, 白朮 6g, 陳皮 6g, 厚朴 6g, 桔梗 6g, 炙甘草 6g, 生姜 6g, 大棗 6g

【解説】

君薬：藿香を大量に用い、辛温の性によって風寒を解表し、さらに芳香化濁・醒脾化中中の働きもある。

臣薬：半夏麴・陳皮は理気燥湿・和胃降逆止嘔。白朮・茯苓は健脾運湿止瀉し、いずれも藿香の効能を高める。

佐薬：大腹皮・厚朴は行気化湿の効能を持ち、気が動けば湿の停滞による腹満も除去される。紫蘇・白芷は辛温発散で、風寒を外へ発散させる。紫蘇は醒脾寛中・止嘔で、白芷は燥湿化濁

の効能も期待できる。桔梗は宣肺利膈・解表化湿の効能を持ち、肺気を開く。

使薬：甘草・生姜・大棗は脾胃と諸薬を調和する。

【効能】解表化湿・理気和中

【臨床応用】本剤は、外感風寒・内傷湿滞証に用いる。発熱・悪寒・頭重・倦怠感・腹満・腹痛・嘔吐・下痢・舌苔白膩・脈濡の湿滞脾胃を主体とする胃腸症状に適する。COVID-19は、寒・湿・毒と認識されているため、体内の湿邪を除去することで、予防効果が期待できる。

【日本における参考処方】同処方

初期感染者の治療

初期感染には、軽症（寒湿型および風熱型）と、邪が膜原を侵した膜原型がある。

軽症は、症状が軽く、画像では肺炎症状が現れていない段階である。微熱を含む発熱、咳、だるさ、咽の痛みなどが見られる。その他にも、鼻づまり、嗅覚・味覚障害、頭痛、関節痛・筋肉痛、下痢などの症状が見られることがある。

このように、COVID-19はカゼやインフルエンザによく似ているが、それらと比べると、症状が続く期間が長いという特徴がある。発症から1週間前後で肺炎の症状（咳・痰・呼吸困難など）が強くなっていくことがわかってきている。

1. 軽症——寒湿型

●通治方 寒湿疫方（武漢抗疫1号方）

（全小林院士の武漢抗疫経験）

本剤は、COVID-19を治療する基本処方として認定されている。

【組成】生麻黄 6g, 生石膏 15g, 杏仁 9g, 羌活 15g, 葶藶子 15g, 貫衆 9g, 地竜 15g, 徐長卿 15g, 藿香 15g, 佩蘭 9g, 蒼朮 15g, 雲苓 45g, 生白朮 30g, 焦三仙各 9g, 厚朴 15g, 焦檳榔 9g, 煨草果 9g, 生姜 15g

【解説】

焦檳榔・煨草果・厚朴は膜原を治療するもので（呉又可は達原飲のなかに焦檳榔・煨草果・